

お題「不思議」互選 数字は票数

2 真夜中に不思議探しに基地へ行く
夜の九時ふしぎ発見のめり込む
スーと来て存在示す女でした
うつし世に姿の見えぬバンクシー
3 手品みる子らはポカンと口を開け
飢える民よそこにミサイル撃ちまくる
あの顔がマスク一ツでスター並み
4 頼みごと五円で済ます神仏
利き酒を見事こなした下戸の舌
派手な色着ると老けると子の指摘
自分では気づかぬ癖の七不思議
5 無愛想な夫が今日はよくしゃべる
夢だけはモノクロで見えるこの不思議
6 不思議な縁あつという間の五十年
百均のこの品なんでこの値段
7 秀 半世紀なぜに解らぬ夫婦道

お題「和む」(連記) 前田 幸男選

お互いに座席を譲る和やかさ
窓ごしに白衣の天使昼休み
撮る側に笑顔の並ぶ七五三
ほど遠い和みくつろぎウクライナ
金婚式鯛もめでたく和み膳
初めての会に知り人心和む
日だまりで犬と遊んでいる時間
クラス会悪ガキまじり場は和み
クラス会和んだ頃にお開きに
親父ギャグフォローもこけて場は和む
初対面お国言葉で打ち解ける
しわくちやの笑顔持ち寄り和む会
ばあちゃんと呼ぶ声心温くなる
面会の母の笑顔にホッとする
嫁姑料理上手で場がなごむ
聞えくる心和らぐ琴の音
秀 一輪のわびすけに会うにじり口
軸 令和だが和む気配のない日本

お題「完璧」近藤 郁子選

A Iは完璧だけど情がない
パーフェクト思っただけの後ずさり

完璧にこだわりすぎてミスが増え
完璧を目指して丁度いい加減
年齢のせい完璧主義になじめない
完璧と言われ続けて肩が凝る
完璧にやったつもりが針の穴
通販のおせち予約し完璧に
完璧な肉ジャガに惚れプロポーズ
完璧な古い噛みしめて策を練る
完璧は神に任せてマイウェイ
ロボットにこころ注入パーフェクト
完璧を誇るお城も落ちました
満点でないから愉快人生は
秀 完璧な土手も崩れるアリの穴
軸 免許更新満点にしたり顔

お題「ささやく」(共選) 山神きよな選

けんかにはささやくほうが何故か効き
雄弁に勝るささやくプロポーズ
赤や黄の紅葉ささやく「見においで」
ここの話の話ができぬ遠い耳
嘘じゃないささやくあった頃もある
公園で好きとささやく糸電話
ささやくいたつもり電源入ってた
風の音が秋と囁く下り坂
耳元にじんわり沁みる深夜便
ひそひそと空気の重い影ふたつ
ささやくに残りわずかと砂時計
小さき子ささやく様子尚かわい
耳許にささやかれた日忘れぬ
雷鳴に愛のささやかき消され
秀 ほおなでる人の谷間のすきま風
軸 ひそひそ声に耳がピクリと反応す

お題「ささやく」(共選) 勝部乃り子選

財産を奪う教会甘い声
深い河ささやくように流れます
ひそひそと空気の重い影ふたつ
風の音が秋と囁く下り坂
子離れに四季のささやく聞くゆとり
ささやくは空耳だった君の愛
ここの話の話ができぬ遠い耳
雄弁に勝るささやくプロポーズ
錦秋に梢ささやく冬まじか

基 弘
幸 男
哲 子
郁 子
乃 子
千 楽
登 美
基 弘
義 雄
広 子
哲 子
登 美
きよな
正 清
幸 男
乃 子
ちさと

幸 男
義 雄
えいじ
乃 子
登 美
ひよこ
広 子
広 子
義 雄
哲 子
アキラ
千 楽
きよな
郁 子
義 雄
ひよこ
乃 子
基 弘
乃 子
アキラ
ひよこ
義 雄
千 楽
よう子
ちさと
えいじ
哲 子
登 美
ちさと
きよな
基 弘
充
よう子
広 子
よう子
義 雄
アキラ
義 雄
登 美

雷鳴に愛のささやきかき消され
ほおなでる人の谷間のすきま風
更迭をささやかれても知らん顔
ささやきが頭の隅に悪の声
出遅れた蚊の囁きと置きみやげ
ささやきに残りわずかと砂時計
秀 耳元にじんわり沁みる深夜便
軸 嘘じやないささやきあつた頃もある
乃り子

自由吟 自選

幸せは苦も楽もなく暮れる日日
盆過ぎて正月なんと早いこと
墓じまい更地になった墓地に立つ
納骨の法要までもオンライン
ブランコは行ったり来たり人生も
待つこと一年見事に咲くダリア
年毎に春と秋とがいなくなる
墓花に造花供える心なき
強もての阿修羅の笑みのおだやかさ
一寸先の闇人格を背負う
かと言つて進軍ラッパ耳ふさぐ
孔子の国が見苦しい振る舞いだ
紅葉が淡い思いを呼び覚ます
ジワジワと薬依存の怖いワナ
野仏に誰かのせたか枯葉傘
五七五酒の相手に句を選ぶ
悔い半分自負半分とサバをよむ
皇帝ダリアも月食見んと天仰ぐ
都合よく記憶失う議員さま
英国で最短在位トラスさん
スクワットで転ばぬ先のパスポート
目を逸らし見上げた星が潤んでる
久々の石仏巡り一万七千歩
両親は妖怪兄弟はウイルス
ヘモグロビンA I Cという悪魔
まだ若い言われつづけて十何年
エレクトーン今じゃものおきはたきかけ
アザレアの秋空に舞うハーモニー
充
鷗外も同じものみた正倉院
眼で笑い口で愚痴言うマスク越し
支払機金を入れると催促し
値上げ波春夏秋冬なん波まで
腰痛にさらに上がらぬ重い腰

登 美
ちさと
郁 子
えいじ
広 子
ちさと
千 楽
乃り子
アキラ
郁 子
えいじ
きよな
ちさと
千 楽
哲 子
登 美
乃り子
仁 史
広 子
ひよこ
正 清
ミチヨ
基 弘
幸 男

お荷物とならぬつもり深呼吸
日めくりに命の端を千切られる
秋夜長話し上手に聞き上手
相愛と思い込んでるお人良し
よう子
義 雄

☆推薦十句 田中 薫選 *句会結果掲載順
窓ごしに白衣の天使昼休み
撮る側に笑顔の並ぶ七五三
一輪のわびすけに会うにじり口
完璧は神に任せてマイウェイ
ほおなでる人の谷間のすきま風
子離れに四季のささやき聞くゆとり
耳元にじんわり沁みる深夜便
墓じまい更地になった墓地に立つ
お荷物とならぬつもり深呼吸
日めくりに命の端を千切られる
よう子

(評)互選は皆さんの総意ですから対象から除
きました。私はこの選をさせていただいてずい
ぶん勉強になります。十句を選ぶときは題を外
してもなお訴えかけるものが強い句を選びま
す。逆に言うとは題は良い句を作るためのヒント
と考えるべきなのでしょう。皆さんも同じよう
に私の推薦十句をなさってみると鑑賞力が付
き、作句力になるのではないのでしょうか。

田中 薫

十二月句会 十二月十九日(月) 一三時開場
いきいきホール2階 「ゆらゆら」互選
「奈良」(連記) 基弘 「大将」千楽
「忘れる」(共選) 哲子 英二 自由吟 各二句

会員募集中 入会金不要 会費月百円
第三月曜日十三時から十五時
いきいきホールで例会 ご見学大歓迎

お問い合わせ

原 広子 79 0061
野々村アキラ 09069611292